

## A-c 地域理解発展研究

地域理解発展研究は総合的な学習の時間として本校探究コース 2 年次で履修する。単位数は一般コースよりも 1 単位多い 2 単位となっており、週に 2 回実施されている。その内容は 4 月から 12 月までの間に 1 年次で取り組んだ地域理解プログラムの研究成果をベースとして地域課題解決策を考察していく学びとなっている。生徒たちは春季休業の時点からテーマ設定を進め、4 月からはテーマに基づいた先行研究調査に着手する。以下に示すものが今年度の計画である。

| 月    | 時数 | 内容                         |
|------|----|----------------------------|
| 3 月  |    | 地域理解発展研究オリエンテーション・グループ分け   |
| 4 月  | 3  | 先行研究調査Ⅰ                    |
|      | 2  | フィールドワークⅠ計画・質問づくり・アポイントメント |
| 5 月  | 2  | フィールドワークⅠ（新庄市内・近隣施設）       |
|      | 1  | 研究テーマ再考                    |
|      | 2  | 先行研究調査Ⅱ                    |
| 6 月  | 2  | 調査結果分析・仮説立案                |
|      | 1  | 発表準備                       |
|      | 1  | リハーサル                      |
|      | 1  | 地域理解発展研究一次発表会（K P 法）       |
|      | 3  | 仮説再考・検証方法立案                |
| 7 月  | 2  | 研究設計書作成                    |
|      | 1  | 研究設計書相互評価                  |
|      | 1  | 研究設計書再考・完成 夏季休業中に検証活動      |
| 8 月  | 2  | 検証結果分析                     |
| 9 月  | 2  | 検証結果分析                     |
|      | 1  | 追加検証計画                     |
|      | 2  | 追加検証・フィールドワークⅡ             |
| 10 月 | 3  | 追加検証分析・問題解決策立案             |
|      | 2  | 発表準備                       |
|      | 1  | リハーサル                      |
|      | 2  | 地域理解発展研究中間発表会              |
|      | 2  | フィールドワークⅢ（外部へのプレゼン）        |
|      | 1  | 問題解決策再考                    |
| 11 月 | 2  | 問題解決策再考                    |
|      | 1  | 発表内容修正・論文執筆                |
| 12 月 | 3  | 発表準備                       |
|      | 1  | リハーサル                      |

|  |   |               |
|--|---|---------------|
|  |   | 地域理解発展研究成果発表会 |
|  | 1 | 論文執筆          |

### ①地域理解発展研究オリエンテーション・グループ分け

春季休業中の講習の時間に実施した。生徒に地域に関連する興味・関心のあるワードを紙に書かせ、自分の興味・関心と近い仲間とグループをつくらせ対話させた。これを数回繰り返して12月まで研究をともにしていくことができる仲間を探させ、9つの研究グループを結成させた。

### ②先行研究調査

先行研究調査は設定したテーマについて現在までどのような研究がなされているのかを確認し、新たな研究の切り口を見つけることを目標としている。また、先行研究の有無によって、自分たちが考えたテーマで研究を進めることができるのかも見えてくるため、テーマ再考の機会ともなる。生徒たちは図書館の文献やインターネットによる論文検索を主として先行研究の有無及びその内容について調査を進めた。



集めたデータを吟味する生徒たち

### ③フィールドワークⅠ計画・質問づくり・アポイントメント

文献やインターネット上の情報が間違いない情報なのか、新庄・最上地域にも当てはまる事例であるのかを実際に自分の目と耳で調査する活動である。本校生徒の特長として質問が得意でないという点がある。この欠点を補うべく、2年次で使用する『探究学習ノートⅡ』には「質問づくり」のページを設け、相手から情報を引き出すことができる質問技術を学ぶ段階から始めた。

生徒たちは情報を獲得できそうな施設や人材を『新庄市報』や関係機関のホームページで検索し、フィールドワークの対象に電話でアポイントメントをとった。10連休の時期と重なり、休業日である施設や店もあり、予定した日に訪問できず、授業時間ではなく放課後に訪問することになったグループもあったが、どのグループも校外での情報収集に取り組むことができた。

### ④フィールドワークⅠ（新庄市内・近隣施設）

新庄市役所や新庄市観光協会への訪問取材、新庄駅前でのインタビューなどグループそれぞれで活動に取り組んだ。駅前のタクシー乗り場で運転手に質問した生徒は「新庄には何もない」と強い口調で言われていたが、同様のことを述べる新庄市民が多いという事実が見えてくるといふ成果があった。新庄市民の特徴として、市の衰退を自虐的に楽しんでいる点があるということは、生徒にとって地域活性化策を考える上での大きなヒントとなったようである。



市役所を訪問した生徒



街頭インタビューにも挑戦した

## ⑤研究テーマ再考

先行研究調査とフィールドワークⅠを通し、設定した研究テーマで探究活動が可能かどうかを検証した。「移住してくる人々は何を求めて移住してくるのか」をテーマにしていたが、フィールドワークで駅の中を見て回ることで「新庄駅の商業拠点化」という方向に転換したグループ、市役所への訪問取材から「ふるさと納税」に興味・関心を持ち、テーマを変更したグループなどがあり、実際に生徒を校外に出したことはより「地域的」で「考察可能」な研究テーマへの軌道修正を促す効果を生んだと言える。

## ⑥先行研究調査Ⅱ

軌道修正した研究テーマで考察が可能かどうかを再度確認するための活動である。初めのテーマよりも「地域的」で「考察可能」な研究テーマとなっているため、研究の情報を得るために市内のどの機関・施設に向かえばよいのか、どの文献資料を入手すべきかが明確となり、生徒は今後の研究活動の見通しも具体化することができたようである。

## ⑦調査結果分析・仮説立案

先行研究調査Ⅱまでの段階で入手した情報の整理・分析と分析結果から考えられる「仮説」を構築した。1年次で習得したナンバリング、ラベリングの手法でデータを分析し、導き出される仮説を論理的に説明する主張づくりを進めた。

## ⑧発表準備～リハーサル～地域理解発展研究一次発表会(KP法)

テーマとテーマに対する仮説を紹介する一次発表会に向けての準備である。この作業も1年次に経験しているので作業自体はスムーズに進行したが、テーマから仮説までの流れを紙芝居で表現する中で自分たちの主張の矛盾点や説明できない部分に気づく生徒もいた。そうしたグループには一次発表会で聴衆に問いかけることによって手掛かりを得るように指示している。

## ⑨仮説再考～検証方法立案

一次発表会におけるアドバイスを受けて、仮説が妥当かどうかを検証した。続いて、各グループ

に再設定した仮説を立証するために夏季休業中に実施する検証方法を考えさせた。生徒は以下の検証方法を示している。

- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・フィールドワーク
- ・実験
- ・ロールプレイ
- ・文献調査
- ・研究室訪問

## ⑩研究設計書作成～研究設計書相互評価～研究設計書再考・完成

テーマ設定から仮説を立証するための検証方法の紹介までをまとめた「研究設計書」を作成させた。設計書は研究の骨子となるものであり、夏季休業中の検証とその分析活動がブレないようにするための指針でもある。各グループから提出された設計書は探究推進課教員が複数で確認し、生徒たちと対話することで補足・修正点を見つけ出し、探究活動の確実な基盤を作らせた。

## ⑪検証結果分析～追加検証計画～追加検証・フィールドワークⅡ

夏季休業中に行った検証内容を分析し、新たに検証が必要かどうか、さらに必要となる情報はなにかなどを確認させたうえで、再度の検証とフィールドワークに取り組ませた。

多くのグループがアンケートによる検証方法を用いていたが、質問事項や対象に不備があったことで偏ったデータしか集まらなかった事例もいくつかあり、複数の調査方法や観点から検証をし直させた。中には新庄市役所の方から本校生徒用に資料をつくっていただいたグループ、来校してくださった地域の方に助言をいただけたグループもあり、地域が本校の教育活動に理解を示していることを実感できた。

## ⑫追加検証分析・問題解決策立案

追加検証とフィールドワークⅡで得た新たな情報を整理・分析し、仮説が成立するか否かを立証したうえで地域課題の解決策を立案する活動である。仮説の成立、不成立についてまでは説明できるものの、その結果から高校生として何ができるのかという解決策づくりに苦勞するグループが多かった。こうした苦勞を支えた教材が「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の経費によって購入することができたパーティションホワイトボードである。ホワイトボードにテーマから仮説、それを裏付ける情報とその分析までの流れを記入することで生徒たちはグループ内で思考を共有し、明確な観点で議論しながら解決策を作り出していた。

## ⑬発表準備～リハーサル～地域理解発展研究中間発表会

中間発表会は一次発表会とは異なり、ポスターセッションの形式をとる。A0用紙にプレゼンテーションソフトで作成したスライドをA4用紙に印刷して貼りつけるというものである。枚数は10枚であり、次のような構成になっている。

|        |               |
|--------|---------------|
| スライド1  | テーマとテーマ設定の背景  |
| スライド2  | 先行研究調査の概要①    |
| スライド3  | 先行研究調査の概要②と仮説 |
| スライド4  | 検証方法①         |
| スライド5  | 検証結果①         |
| スライド6  | 検証方法②         |
| スライド7  | 検証結果②         |
| スライド8  | 考察            |
| スライド9  | 解決策と効果        |
| スライド10 | 実現のための条件と参考文献 |

中間発表会に向けての準備



昨年度も同様の作業を行ったが、今年度の作業は非常にスムーズに進められていった。要因としてスライド1～4は一次発表会で作成した紙芝居を活用することで容易に作成することができること、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の経費によってプリンタインクを豊富に準備することができ、例年発生していたインク切れによる作業の停滞がなかったことである。作業時間が短かったことでリハーサルの時間も確保でき、生徒の発表スキル向上もはかることができた。

中間発表会は本校体育館で行われたが、パーティションホワイトボードが購入できたことで準備の負担も大幅に軽減された。中間発表会の段階で完成度の高い研究であった「“出汁”を利用しておいしく減塩できるか」、「新庄市はふるさと納税で税収を増やせるか」の2研究を12月に開催される山形県探究型学習課題研究発表会に参加させることとした。

#### ⑭フィールドワークⅢ(外部へのプレゼン)

中間発表会は校内の人間を対象とした発表であったため、地域の方からの評価も得ることをねらいとしてフィールドワークⅢとして地域の方へのプレゼンテーションを実施した。協力いただいた方々と生徒の研究テーマ一覧を以下に紹介する。



地域の方に対するプレゼン

| 研究テーマ                                | プレゼン相手                                           |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------|
| “出汁”を利用しておいしく減塩することは可能か              | 宇野栄養士（新庄北高定時制栄養士）                                |
| 今の子どもたちは郷土料理が好きなのか？<br>～理想の郷土料理を作れ！～ | 「療食」の調理員の方々                                      |
| 自己肯定感ややる気は地域に関わりがあるのか                | 笹原 啓一さん（元中学校校長）                                  |
| 高校と地域活性化～最上校から考える～                   | 牛木 力さん<br>（島根県津和野高校魅力化コーディネーター）<br>※Web 会議アプリを利用 |



|                                         |                 |
|-----------------------------------------|-----------------|
| 奥羽新幹線は実現すべきか                            | 遠藤 晃一さん（最上総合支庁） |
| 娯楽施設をつくることは人口増加につながるか                   | フィルムコミッション      |
| 新庄市はふるさと納税で税収を増やせるか                     | 新庄市総合政策課        |
| 新庄駅は商業拠点となりうるか                          | 新庄市商工観光課        |
| 様々な宣伝方法を利用して（仮）新庄市立看護専門学校への入学希望者は増やせるのか | 茅野 博さん（みどり印刷社長） |

## ⑮問題解決策再考

生徒たちは中間発表会における評価シートとコメント、地域の方々からのアドバイスを参考にし、より効果的かつ具体的な問題解決策を考えた。試行錯誤を続ける中で、子どもたちに受け入れられる郷土料理を考案していたグループと出汁と減塩について探究していたグループが実際の「成果物」として郷土料理と味噌汁を作って披露するという結論に達した。「成果物」を作るというのはこれまでの本校の総合的な学習の時間では見られなかった活動であり、探究推進課として両グループの動きを見守ってみることとした。

## ⑯発表内容修正・論文執筆～発表準備～リハーサル

成果発表会に向けてのプレゼンづくりと探究活動のまとめとなる論文作成を並行して行わせた。プレゼンの内容と論文の内容に齟齬が生じないように、授業の中ではグループ内で情報交換を密にさせることに留意した。2回行ったプレゼンテーションとその評価は



生徒の考察を深化させ、作り直されたスライドはどのグループもより精緻な見解が述べられていた。

なお、発表準備を行っている中で、「奥羽新幹線は実現すべきか」のグループが山形新幹線新庄延伸 20 周年記念シンポジウムで研究成果を発表する機会を得ている。30 枚を超えるスライドを作成し、JR 各社のキロ毎の平均営業利益を算出。それを奥羽新幹線の営業キロ数にかけ合わせることで奥羽新幹線が利益を上げるための年数を試算したことで注目を浴びた。地域を題材とした探究活動が地域に注目されていることを示すとともに、生徒たちの探究活動が地域の大人にとって有益な情報・知識を提供するもの

であることを示した出来事であった。

## ⑰地域理解発展研究成果発表会

1 年次生および保護者・学校関係者にも公開する形で実施した。発表時間 8 分・質疑応答 2 分・準備 2 分の 12 分で構成し、一般コースの課題研究 テーマ、探究コースの地域理解発展研究 9 テーマの研究を発表させた。注目すべきは前述した「成果物」を披露した探究コースの生徒たちの発表で

あり、両グループは多くの観衆を集めていた。一般コースの方でも補足資料や写真を提示するグループがあり、それぞれの探究活動の魅力を伝える工夫が見られた発表会となった。なお、発表に対する評価はルーブリック評価を用いている。



### 【成果発表会ルーブリック】

| 項目 | 発表内容                                             |                                                 |                                                            | 発表の様子                              |                                                   |
|----|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------|
|    | テーマ～仮説                                           | 仮説～検証結果                                         | 検証結果～考察・まとめ                                                | スライド（用紙）                           | 発表態度                                              |
| S  | 「テーマ設定」から「先行研究」、「仮説」へのつながりが十分に伝わる。               | 「仮説」に対して「検証方法」が適切に設定されており、「検証結果」もよくまとめられている。    | 「検証結果」に対する「考察」が明確であり、根拠も説得力がある。まとめも研究を通して明らかになった事が明確である。   | 用紙が見やすく、発表も理解しやすい。さらにレイアウトにひと工夫ある。 | 「声の大きさ」、「話す速さ」、「目線の送り方」の3つが全てできており、観衆との対話を心がけている。 |
| A  | 「テーマ設定」から「先行研究」、「仮説」へのつながりのうち、不十分だと感じるものが 1 つある。 | 「仮説」に対して「検証方法」は適切に設定されているが、「検証結果」のまとめ方が効果的ではない。 | 「検証結果」に対する「考察」は示されているが、根拠が不十分である。まとめは研究を通して明らかになった事が明確である。 | 用紙が見やすく、発表も理解しやすい。                 | 「声の大きさ」、「話す速さ」、「目線の送り方」の3つが全てできている。               |
| B  | 「テーマ設定」から「先行研究」、「仮説」へのつながりのうち、不十分だと感じるものが 2 つある。 | 「仮説」に対して「検証方法」は設定されているが、「検証結果」のまとめ方が不十分である。     | 「検証結果」に対する「考察」は示されているが、根拠が不十分である。まとめも研究を通して明らかになった事がわからない。 | 用紙が見やすい。                           | 「声の大きさ」、「話す速さ」、「目線の送り方」のうち2つできている。                |
| C  | 「テーマ設定」から「先行研究」、「仮説」へのつながりがない。                   | 「仮説」に対して、「検証方法」も「検証結果」も整合性がない。                  | 考察もその根拠もあいまいであり、まとめも感想になっている。                              | 用紙が見づらい。                           | 「声の大きさ」、「話す速さ」、「目線の送り方」のうち1つできている。                |

最後に本校校長、山形県教育庁高橋俊彦主任指導主事、山形大学山科勝准教授より講評をいただいている。本校校長は発表に対して生徒たちからの質問が少なかったことが指摘された他、研究者としてもっと背伸びして見ること、「とがった」考察をしてみる事が述べられ、さらにレベルの高い研究への取り組みへの期待が生徒たちに伝えられた。高橋主任指導主事は全体の課題としてデータの扱い方・分析・結論への結び付け方に甘さがあることが指摘され、特に理系の研究で実験や観察にもっと注力すべきであるということが述べられた。一方、生徒たちの発表態度は堂々としており、発表者がコミュニケーションをとろうとしている点が良いという評価も得ている。山科准教授は研究が100%の完成度でない点が魅力であり、インターネット上にある情報を「答え」とせず、表面的知識を経験を通して本当の知識に変えてほしいという希望が述べられた。

3人の講評から見てくる今後の課題は、①生徒の質問力向上、②データ分析の深化である。次年度の「研究発表実践」でこの2点を改善していけるような働きかけをしていく必要がある。

なお、成果発表会の翌週には「山形県探究型学習課題研究発表会」が山形市で開催され、一般コースから2テーマ、探究コースから2テーマ、地域探究部より1テーマが参加した。この中で『“出汁”を利用しておいしく減塩することは可能か』が優秀賞を受賞している。

#### 【令和元年度山形県探究型学習課題研究成果発表会 参加テーマ】

一般コース

『昆虫の小型化のように人間小型化するのか』

『香りと集中力』

探究コース

『“出汁”を利用しておいしく減塩することは可能か』

『新庄市はふるさと納税で税収を増やせるか』

地域探究部

『戸沢村角川を元気にするプロジェクト』



優秀賞となった“出汁チーム”

## ⑱論文執筆

探究活動のまとめとなる論文を例年通り課したが、今年度はそれに加えて探究活動全体の振り返りも行わせている。冬期講習の時間を利用して対話を中心とした振り返り活動に取り組ませた。

振り返りは右に示した「指導の流れ」に沿って進められたが、本校の総合的な探究（学習）の時間は毎時「指導の流れ」が作成され、実施日の前日に校内ネットワークで全職員に配信されている。



対話で活動を振り返る生徒

| 12月18日 2年次探究コース 課題研究 指導の流れ<br>地域理解発展研究の振り返り       |       |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                           |
|---------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施校時：6校時                                          |       |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                           |
| 場所：教室                                             |       |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                           |
| 本時の目標：地域理解発展研究における探究活動を振り返り、課題研究における取り組みの指針とする。   |       |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                           |
| 指導の流れ：探究学習ノート・地域理解発展研究用紙、ルーブリック、リフレクションシートを準備させる。 |       |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                           |
| 項目                                                | 時配(分) | ワーク                                                                                                                                                                                        | ポイント                                                                                                      |
| 導入                                                | 5分    | ・本時の説明                                                                                                                                                                                     | ・本時は成果発表会の振り返りを行った後、地域理解発展研究全体の振り返りを行い、その結果を今後の課題研究に活用できるようにすることを述べる。                                     |
| 活動                                                | 24分   | <b>1 成果発表会の振り返り</b><br>①個人ワーク（3分）<br>・ルーブリックを見ながら、達成できたと思う欄に○をつける。<br>②グループワーク（21分）<br>・グループ内でルーブリックの個人評価を照合し、全体での達成度を確認。（7分）<br>・評価シートを回し読みする。（7分）<br>・評価シートの内容を参考にして、再度全体での達成度を確認する。（7分） | ・個人評価<br>↓<br>グループ内評価<br>↓<br>リフレクションシートによる客観評価<br>↓<br>グループ内再評価 の流れとなる。                                  |
|                                                   | 20分   | <b>2 地域理解発展研究の振り返り</b><br>①テーマの提示と選択（3分）<br>i 正直な感想<br>ii 習得できた力は何か？<br>iii 残った課題や今後必要な力は？<br>iv 今だから言えること<br>v グループ以外の人に伝えたいこと<br>②フリートーク（8分×2テーマ）                                        | ・黒板に5テーマを横書きし、2テーマを選ばせる。<br>・1テーマにつき、グループ内で8分間のフリートークを行わせる。<br>・探究学習ノートP72の「成果発表会までの振り返り」にトークの内容はメモさせていく。 |
| まとめ                                               | 5分    | 探究学習ノートで最後の振り返りグループ解散                                                                                                                                                                      | ・探究学習ノートP73の「地域理解発展研究を終えて」を記入。<br>・「ありがとう」を交わしてグループ解散。                                                    |



## 研究テーマ

### 奥羽新幹線は実現すべきか？

【指導者】山形県企画振興部

総合交通政策課                      さん

山形県最上総合支庁総務企画部

総務課                                  さん

## 1 はじめに

地域にかかわる大きな事業である新幹線事業がもたらす影響を調べることは地域の未来にとって大きな意義があると考えたため研究を行った。

## 2 本論

### (1) 先行研究の概要

①立命館大学の「整備新幹線と地域振興効果」という論文から新幹線事業の人口や経済への影響を調べた。高速道路・新幹線があることによって人口増加と経済波及効果がもたらされることが分かった。また、その効果はミニ規格新幹線よりフル規格新幹線の方が大きいことが報告されている

#### ②最上総合支庁へのインタビュー

奥羽新幹線実現のメリット

- ・移動が高速、安全、安心になる。
- ・県外の大学に通えるようになる。

奥羽新幹線実現のデメリット

- ・莫大なお金がかかる。
- ・在来線の管理が負担となる。

### (2) 仮説

新幹線事業は大きな費用を必要とするため、自治体の財政に与える影響も大きい。そのため県民の同意を得られる利益を確認し、地域にとってどのような利益・不利益があるか確かめることが重要である。

### (3) 検証方法

#### ①アンケート調査

対象：新庄市民 48 人    年齢層：10 代～80 代

目的：市民のフル規格化に対する意見を聞く。

内容：メンバーが紙面で調査。

#### ②収支試算

対象：東北・北陸・九州・長野新幹線

内容：4つの新幹線による経済効果と各地域の経済規模から山形県の経済規模における新幹線建設による経済効果を算出した。

### (4) 検証結果

#### ①アンケート調査

賛成 33 人、反対 9 人であり、賛成の理由では移動が速くなるからというものが最も多かった。反対の理由では費用が高額であるからというものが最も多かった。

#### ②収支試算

収支試算の結果から、山形県は新幹線専用線路建設費に 1181, 37 億円、新幹線が通過する自治体の在来線維持費に年間 1 億円の支出があることが分かった。また県としての経済効果は 5 年で 225 億円生じることが分かった。

## 3 考察

収支試算の結果から、収入が支出を上回るのは建設から 28 年後だと分かり、財政面で課題があるという結果となった。

アンケートの結果からは、新庄市民の 8 割が賛成、2 割が反対、また山形新聞が行ったアンケートから、県民の 6 割が賛成、3 割が反対、1 割が中立であることが分かった。以上のデータから、県民の希望的には仮説は成立するも、財政面の課題については検討の余地を残した。

## 4 結論

財政面の課題を克服するために私たちができることは、今まで得た情報を組み合わせるなどして新たな費用の捻出、削減方法を考えることである。また、私たち高校生にできることとしては、今回の研究のように自分たちなりに調査をしてシンポジウムなどで発信をしていくことである。

## <参考文献・引用文献>

新庄市政策経営課(2009) 『統計でみる新庄市』  
MONEYzine 産経ニュース 2017 年 10 月 6 日

<https://moneyzine.jp/news/>

山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟

<https://www.ou-uetsu-shinkansen.jp/>

## 一般コース 課題研究

一般コースでは総合的な学習の時間において「課題研究」（1 単位）が展開されている。事業実践には位置づけられていないが、参考までに年間計画と生徒達の研究テーマを掲載しておく。

| 月    | 時数 | 内 容         |
|------|----|-------------|
| 4 月  | 2  | 先行研究調査・仮説立案 |
| 5 月  | 2  | 先行研究調査・仮説立案 |
|      | 1  | 発表準備        |
| 6 月  | 1  | 発表準備        |
|      | 1  | リハーサル       |
|      | 1  | 分野ごとに一次発表会  |
|      | 1  | 仮説再考・検証方法立案 |
| 7 月  | 2  | 仮説再考・検証方法立案 |
| 9 月  | 3  | 検証結果分析      |
| 10 月 | 2  | 発表準備        |
|      | 1  | リハーサル       |
|      | 2  | 中間発表会       |
|      | 1  | 発表内容修正・論文執筆 |
| 11 月 | 1  | 論文執筆        |
| 12 月 | 1  | 発表準備        |
|      | 1  | リハーサル       |
|      |    | 課題研究成果発表会   |
| 1 月  | 1  | まとめ・論文修正    |

| 分 野           | テ ー マ                     |
|---------------|---------------------------|
| 人文<br>・<br>国際 | 人の感情や行動を知れば万引きを防げるのか      |
|               | じゃんけんで相手の出す手をあやつることができるのか |
|               | ドイツの敗北はヒトラーの采配によるものか      |
|               | 「猫は魚が一番好き」というイメージは本当？     |
|               | 最近のドラマの視聴きっかけは SNS にあるのか  |
|               | 新庄にクリスマスが広まったのはいつか        |
|               | 嘘をつくときに身振りが増えるのか          |
|               | めざましテレビの占いは当たっているのか       |
|               | 人々がスマホから離れる方法とは？          |
|               | 朝の占いは当たるのか                |
|               | 幸せと努力は正の相関関係にある           |
|               | 新北生が気になるうわさは本当なのか         |
|               | 初対面の相手に好印象を与えるためには        |
|               | 新北生と仲良くなるには               |

|                                    |                                          |
|------------------------------------|------------------------------------------|
| 法<br>・<br>経済                       | スマホゲームが人気な中、コンシューマーゲームは生き残れるか            |
|                                    | 日本の通貨が全て仮想通貨に置き換わったら、経済は成り立つのか？          |
|                                    | ディズニー側の戦略は成功しているのか                       |
|                                    | 流行予想色は消費者の心理に影響するのか                      |
| 教育<br>・<br>芸術<br>・<br>スポーツ         | 日本人の自信が低い理由                              |
|                                    | CD のデザインは人の興味に影響を与えるのか                   |
|                                    | 筋トレは休みを入れることで効率的につけられるのか                 |
|                                    | 定期テストをなくしたら、成績は上がるのか                     |
|                                    | 最も太る食べ物・痩せる食べ物が判明！                       |
|                                    | 今の高校生は音楽を聴くとき歌詞を重視して聴く？！                 |
|                                    | 音楽の好みはコードで決まるのか                          |
|                                    | 棒読みの演技でも BGM の力で感動させられることができるのか          |
|                                    | 秋のコーディネートについて                            |
|                                    | 複数の音楽ジャンルを手掛けるアーティストは人気が出るのか             |
|                                    | 大学ランキングトップ 10 はなぜアメリカとイギリスがしめているのか       |
|                                    | プロテインは体脂肪率と筋肉のつき方にどのような変化をもたらすのか         |
| 理<br>・<br>工<br>・<br>理工             | 動物の小型化のように人間も小型化する可能性があるのか               |
|                                    | バドミントンはラケットが違くとシャトルの飛び方は変わるのか？           |
|                                    | ゲームは集中力に影響があるのか                          |
|                                    | 高校生にとって最適な睡眠は時間によって決まるのか～6 時間 VS 7 時間～   |
|                                    | 香りと集中力の関係                                |
|                                    | テレビゲームが脳にもたらす影響                          |
| 医療<br>・<br>福祉<br>・<br>農<br>・<br>栄養 | 食べすぎは工夫次第で改善できるのか                        |
|                                    | 味は味覚だけで決まるのか                             |
|                                    | 昆虫食で生活することはできるの？～Back to nature with 盛岡～ |
|                                    | 「きゅうりダイエット大作戦！」～きゅうりを食べるとやせるのか？～         |
|                                    | 一緒に食べる組み合わせによって、体重に増減はあるのか               |
|                                    | 本当に看護師不足が解消できるのか                         |
|                                    | 勉強中お腹がすかないためには                           |

